

西アジア考古学関連学術論文・出版物 (2020 年 1 月～12 月)

日本の研究者による西アジア考古学関連の出版物について、おもに会員の皆様から寄せられた情報にもとづいて作成しております。

『西アジア考古学』22 号編集委員会

- 赤司千恵・門脇誠二・F. キリエフ・西秋良宏 2020.3 「アゼルバイジャンにおけるヨモギ属 (*Artemisia* spp.) 利用史」『植生史研究』28 巻 2 号 59-70 頁。
- Anak Suab, S., Y. Hayakawa, S. Kume, Y. Yamaguchi, B. Amanbaeva, A. Kadyrov, R. Avtar and T. Ogura 2020.8 Mapping of Archaeological Sites Using UAV Aerial Survey and PPK GNSS Ground Survey Techniques in Central Asia. *IOP Conference Series: Earth and Environmental Science* 540: 012014.
- アマンバエヴァ, B.・山内和也・櫛原功一・中山誠二・植月学・平野 修・望月秀和・三浦麻衣子・岩井俊平・中山千恵・デニース ソローキン 2020.3 『アク・ベシム (スィヤブ) 2019 Ak-Beshim (Suyab) 2019』帝京大学シルクロード学術調査団調査研究報告 3 1-185 頁 帝京大学文化財研究所・キルギス共和国国立科学アカデミー。
- 有村 誠 2020.3 「東海大学考古学研究室所蔵の脱穀機」『日々の考古学』3 287-298 頁 東海大学考古学研究室。
- 有村 誠 2020.3 「西アジア新石器時代の人物小像再考」常木晃先生退職記念論文集編集委員会 (編) 『世界と日本の考古学—オリーブの林と赤い台地—』47-62 頁 六一書房。
- 有村 誠 2020.3 「PPNB 文化拡散説の検討—ケルク出土石器資料からの一考察—」『西アジア考古学』21 号 105-116 頁。
- Arimura, M. 2020.5 *The Neolithic Lithic Industry at Tell Ain El-Kerkh*. Oxford, Archaeopress.
- 有村元春 2020.3 「エジプト出土のミケーネ土器模造品—製作技法及び出土状況からの再検討—」『西アジア考古学』21 号 1-21 頁。
- 安間 了・常木 晃・三宅 裕 2020.3 「イラク国北部 Jarmo 遺跡およびトルコ国南東部 Hasankeyf 遺跡出土の石器材黒曜石の化学組成と原産地推定」山田重郎 (編) 『都市文明の本質—古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究 2 研究成果報告 2019 年度』197-204 頁。
- イクラム, S. 2020.3 「2019 年度北サッカラ調査における動物遺存体とミイラに関する調査概報」『エジプト学研究』26 号 66-73 頁。
- Ishizaki, N. 2020.9 「Report of the Wood Identification at Dahshur North in the Twenty-sixth and Twenty-seventh Seasons」『昌平エジプト考古学会紀要』8 号 53-67 頁。
- 石渡美江 2020.12 「大同市南郊平城遺跡出土青銅葡萄童子裝飾高脚杯」『ヘレニズム～イスラーム考古学研究 2020』55-68 頁。
- Itahashi, Y., A. Ananyevskaya, M. Yoneda, A. R. Ventresca Miller, Y. Nishiaki and G. Motuzaite Matuzeviciute 2020.10 Dietary Diversity of Bronze-Iron Age Populations of Kazakhstan Quantitatively Estimated through the Compound-Specific Nitrogen Analysis of Amino Acids. *Journal of Archaeological Science Reports* 33: 102565.
- 上杉彰紀 2020.3 「インダス考古学の現状と課題」『西アジア考古学』21 号 61-80 頁。
- 植月 学・新井才二 2020.11 「キルギス共和国アク・ベシム遺跡における動物資源利用」『帝京大学文化財研究所研究報告』19 集 35-60 頁。
- ウズベキスタン共和国科学アカデミー芸術学研究所・立正大学ウズベキスタン学術調査隊 (編) 2020.3 『カラ・テペ テルメズの仏教遺跡』六一書房。
- 小高敬寛・前田 修・下釜和也・早川裕次・西秋良宏・N. A. ムハンマド・K. ラシード 2020.3 「新石器化と都市化のはざま—イラク・クルディスタン、シャカル・テペ遺跡の第 1 次発掘調査 (2019 年)—」日本西アジア考古学会 (編) 『第 27 回西アジア発掘調査報告会報告集 令和元年度 考古学が語る古代オリエント』15-20 頁。
- Odaka, T., O. Maeda, K. Shimogama, Y. S. Hayakawa, Y. Nishiaki, N. A. Mohammed and K. Rasheed 2020.12 Late Neolithic in the Shahrizor Plain, Iraqi Kurdistan: New Excavations at Shakar Tepe, 2019. *Neo-Lithics* 2020: 53-57.
- Carter, T., R. Moir, T. Wong, K. Campeau, Y. Miyake and O. Maeda 2020.9 Hunter-Fisher-Gatherer River Transportation: Insights from Sourcing the Obsidian of Hasankeyf Höyük, a Pre-Pottery Neolithic A Village on the Upper Tigris (SE Turkey). *Quaternary International*. <https://doi.org/10.1016/j.quaint.2020.09.045>.
- 柿沼陽平 2020.11 「文物としての隨身魚符と隨身亀符」『帝京大学文化財研究所研究報告』19 集 127-147 頁。
- 柏木裕之・山田綾乃 2020.9 「クフ王第 2 の船 屈曲部材、端部が半円に加工された板材、貫通孔を備えた相欠き角棒—実測調査報告 その 5—」『昌平エジプト考古学会紀要』8 号 26-52 頁。
- 門脇誠二 2020.2 「現生人類の出アフリカと西アジアでの出来事」西秋良宏 (編) 『アフリカからアジアへ—現生人類はどう拡散したか—』7-52 頁 朝日新聞出版。
- 門脇誠二 2020.3 「人類最古のビーズ利用とホモ・サピエンス—世界各地の発見から」池谷和信 (編) 『ビーズでたどるホモ・サピエンス史』23-36 頁 昭和堂。
- 門脇誠二 2020.11 「光ルミネッセンス年代測定で明らかになる人類史」『名古屋大学理学同窓会報』33 号 11 頁。
- 門脇誠二・廣瀬允人・須賀永昇・S. マサデ・D. ヘンリー 2020.3 「ホモ・サピエンスの拡散・定着期における文化動態—南ヨルダン、カルハ山の旧石器遺跡調査 (2019 年)—」日本西アジア考古学会 (編) 『第 27 回西アジア発掘調査報告会報告集 令和元年度 考古学が語る古代オリエント』26-30 頁。
- 河合 望・高橋寿光 2020.3 「エジプト、北サッカラ遺跡の未知の墓を掘る：ローマ時代のカタコンベの発見—エジプト、北サッカラ第 4 次・第 5 次調査 (2019 年)—」日本西アジア考古学会 (編) 『第 27 回西アジア発掘調査報告会報告集 令和元年度 考古学が語る古代オリエント』26-30 頁。

- 告集 令和元年度 考古学が語る古代オリエント』114-119 頁。
- 河合 望・吉村作治・柏木裕之・高橋寿光・米山由夏・石崎野々花・菅沼奏美・S. イクラム 2020.3「第4次北サッカラ遺跡調査概報」『エジプト学研究』26号 12-31 頁。
- 河合 望・吉村作治・近藤二郎・柏木裕之・高橋寿光・米山由夏・石崎野々花・馬場悠男・坂上和弘・S. イクラム 2020.3「第5次北サッカラ遺跡調査概報」『エジプト学研究』26号 32-61 頁。
- 河江尚利・安室喜弘・金谷一郎 2020.3「ギザのスフィンクス神殿における3D計測調査—エジプト・ギザ遺跡・2019年度調査—」日本西アジア考古学会（編）『第27回西アジア発掘調査報告会報告集 令和元年度 考古学が語る古代オリエント』103-106 頁。
- 川崎建三・山内和也 2020.11「ベルンシュタムによるアク・ベシム遺跡シャフリスタン2の発掘調査—1939年、1940年—」『帝京大学文化財研究所研究報告』19集 215-245 頁。
- Kawanishi, H., S. Tsujimura and T. Hanasaka (eds.) 2020.12 *Preliminary Report Akoris 2019*. Nagoya, the Research Center for Cultural Heritage and Texts, Nagoya University.
- Campbell, S., E. Healey and O. Maeda 2020.8 Profiling an Unlocated Source: Group 3d Obsidian in Prehistoric and Early Historic Near East. *Journal of Archaeological Science: Reports* 33: 102533.
- 櫛原功一 2020.11「アク・ベシム遺跡の土器編年試案」『帝京大学文化財研究所研究報告』19集 1-16 頁。
- 久米正吾・新井オニ・覚張隆史・辰巳祐樹・早川裕式・藤澤明・宮田佳樹・山口雄治・I. チチウルカイテ・K. ペセカス・G. モツザイデ・マツゼビチウテ・H. ホシモフ・A. アブディカノフ・B. マトババエフ 2020.3「中央アジア初期農耕牧畜民の交流から東西交渉の始まりを探る—キルギス、モル・ブラク1遺跡（第3次）、ウズベキスタン、ダルヴェルジン遺跡（第2次）の発掘調査（2019年）—」日本西アジア考古学会（編）『第27回西アジア発掘調査報告会報告集 令和元年度 考古学が語る古代オリエント』56-61 頁。
- Kulakoğlu, F., R. Kontani, A. Uesugi, Y. Yamaguchi, K. Shimogama and M. Semmoto 2020.4 Preliminary Report of Excavations in the Northern Sector of Kültepe 2015-2017. In F. Kulakoğlu, C. Michel and G. Öztürk (eds.), *Interactive Approaches to the Archaeology and History of Kültepe-Kaneş. Kültepe, 4-7 August 2017. KIM 3 (Kültepe International Meeting)*, 8-88. Turnhout, Brepols Publishers.
- 黒河内宏昌 2020.3「古代エジプトクフ王第2の船発掘・保存・組み立て復原プロジェクト—エジプト・ギザ遺跡・2019年—」日本西アジア考古学会（編）『第27回西アジア発掘調査報告会報告集 令和元年度 考古学が語る古代オリエント』100-102 頁。
- 黒河内宏昌・吉村作治 2020.3「2019年 太陽の船プロジェクト 活動報告」『エジプト学研究』26号 3-11 頁。
- 桑原久男・間倉裕生・橋本英将 2020.3「アナハラの歴史解明に向けて—イスラエル、テル・レヘシュ第12次発掘調査（2019年）—」日本西アジア考古学会（編）『第27回西アジア発掘調査報告会報告集 令和元年度 考古学が語る古代オリエント』31-34 頁。
- 小泉龍人 2020.7「水と土地の利用—メソポタミア」日本沙漠学会（編）『沙漠学事典』174-175 頁 丸善出版。
- 小泉龍人 2020.11「多様な自然環境」鈴木 董・近藤二郎・赤堀雅幸他（編）『中東・オリエント文化事典』14-17 頁 丸善出版。
- Koizumi, T., H. Ojima, H. Yoshida and A. Yoshida 2020.4 Experimental Analysis of Sun-Dried Bricks and Pottery from the Ubaid and Late Chalcolithic Periods. In A. Otto et al. (eds.), *Proceedings of the 11th International Congress on the Archaeology of the Ancient Near East, Volume 2*, 183-196. Wiesbaden, Otto Harrassowitz.
- 後藤 健・西藤清秀・安倍雅史・上杉彰紀・岡崎健治 2020.3「古代ディルムン王国の起源を求めて—パハレーン、ワーディー・アッ=サイル考古学プロジェクト2019—」日本西アジア考古学会（編）『第27回西アジア発掘調査報告会報告集 令和元年度 考古学が語る古代オリエント』80-84 頁。
- 小林 豊・田村光平・鈴木美保・中村光宏・加藤慎二・中川和哉・高倉 純・山岡拓也・野口 淳・近藤康久・西秋良宏 2020.12「パレオアジアモード存在・非存在データの探索的統計解析」北川浩之（編）『第10回研究大会 パレオアジア文化史学：アジア新人文化形成プロセスの総合的研究』4-5 頁。
- 紺谷亮一・山口雄治・下釜和也・F. クラックオウル 2020.3「中央アナトリアにおける銅石器時代解明に向けて—キュルテペ遺跡北トレンチ発掘調査2019年—」日本西アジア考古学会（編）『第27回西アジア発掘調査報告会報告集 令和元年度 考古学が語る古代オリエント』49-51 頁。
- 近藤二郎 2020.3「ネクロポリス・テーベ研究—エジプト、アル=コーカ地区、第13次調査（2019-2020年）—」日本西アジア考古学会（編）『第27回西アジア発掘調査報告会報告集 令和元年度 考古学が語る古代オリエント』111-113 頁。
- 近藤二郎・吉村作治・柏木裕之・河合 望・高橋寿光・福田莉紗 2020.3「第12次ルクソール西岸アル=コーカ地区調査概報」『エジプト学研究』26号 74-87 頁。
- 近藤英夫 2020.3「後藤健さんを偲ぶ」『西アジア考古学』21号 151-152 頁。
- 近藤康久・大西秀之・岩本葉子・池内有為・中島健一郎 2020.12「パレオアジア文化史学と学際新領域への挑戦：研究観調査のまとめと今後の展望」北川浩之（編）『第10回研究大会 パレオアジア文化史学：アジア新人文化形成プロセスの総合的研究』60-61 頁。
- 近藤康久・三木健裕・黒沼太一 2020.3「アラビア半島におけるホモ・サピエンスの定着：オマーン内陸部ワディ・タヌーフにおける遺跡調査」北川浩之（編）『パレオアジア文化史学 計画研究 A03 2019年度研究報告書 アジアにおけるホモ・サピエンス定着期の気候変動と居住環境の解明』13-17 頁。
- 近藤康久・三木健裕・黒沼太一・北川浩之 2020.12「南東アラビア山麓峡谷における人類の定着と環境：4年間のまとめと今後の展望」北川浩之（編）『第10回研究大会 パレオアジア文化史学：アジア新人文化形成プロセスの総合的研究』38-39 頁。
- 紺野英二・岩本篤志・池上 悟・本間岳人・A. ウルマゾフ 2020.3「アムダリヤ流域におけるクシャン朝仏教遺跡の探索—ウズベキスタン南部のズルマラ仏塔の調査（2019）—」日本西アジア考古学会（編）『第27回西アジア発掘調査報告会報告集 令和元年度 考古学が語る古代オリエント』71-74 頁。
- 西藤清秀 2020.9「パハレーンで古墳を掘る—パハレーン・マカバ古墳群の調査」『ORIENTE』61号 6-11 頁 古代オリエント博物館。

- 西藤清秀 2020.10「シリア・パルミラ遺跡の過去と現在」横浜ユーラシア文化館（編）『杏咲く頃—絵筆と歩いたシルクロード 小間嘉幸絵画展』46-48頁。
- 西藤清秀 2020.12「パハレーン、マカバ古墳群の調査」『ヘレニズム～イスラーム考古学研究 2020』85-103頁。
- Saito, K. 2020.8 Lion Daalder Coins from No.129-b Tomb at the North Necropolis in Palmyra and a Palmyrene Landscape Drawn by a Dutch Painter. In I. B. Mæhle, P. B. Ravnå and E. H. Seland (eds.), *Methods and Models in Ancient History - Essays in Honor of Jorgen Christian Meyer*, 273-283. Athen, The Norwegian Institute at Athens.
- 西藤清秀・吉村和昭・岡崎健治・大藪由美子・間舎裕生・鈴木朋美・齊藤 希・岩越陽平・木村結香 2020.3「シリア・パルミラ人の痕跡を求めて—パハレーン、マカバ古墳群第1号墳第四次調査2019—」日本西アジア考古学会（編）『第27回西アジア発掘調査報告会報告集 令和元年度 考古学が語る古代オリエント』85-90頁。
- 坂上和弘・馬場悠男 2020.3「北サッカラ遺跡出土の単純埋葬遺体の形質人類学的調査」『エジプト学研究』26号 62-65頁。
- 坂本 翼 2020.3「鈴木まどか先生を追悼して」『古代文化』71巻4号 125-126頁。
- Sakamoto, T. 2020.12 Christianising a Nubian Landscape: A Chronology of Post-Meroitic Goblets from the Dal Cataract. *Sudan & Nubia: The Sudan Archaeological Research Society Bulletin* 24: 43-56.
- 佐々木達夫 2020.3「オマーン湾港町ディバの発掘—アラブ首長国連邦ディバ遺跡第15～19次調査（2017～2020年）—」日本西アジア考古学会（編）『第27回西アジア発掘調査報告会報告集 令和元年度 考古学が語る古代オリエント』91-95頁。
- 下釜和也 2020.2「前期青銅器時代のメソポタミアと4.2ka イベント」日本西アジア考古学会公開シンポジウム実行委員会（編）『気候変動と古代西アジア—古気候から探る文化・文明の興亡—』17-20頁 日本西アジア考古学会。
- 下釜和也 2020.3「ギョベックリ・テペ遺跡の巨石建築と新石器時代の祭場」『ORIENTE』60号 18-23頁 古代オリエント博物館。
- 下釜和也 2020.3「PPN9と最先端の西アジア新石器時代研究—第9回近東先土器新石器時代石器研究国際会議・東京大会への参加記—」『西アジア考古学』21号 137-144頁。
- 下釜和也 2020.10「古代西アジアの航海史」天理大学附属天理参考館・天理図書館（編）『大航海時代—ヘーマルコ・ポーロが開いた世界— 特別展図録』35-36頁。
- 下釜和也 2020.11「キュルテペ遺跡土器群の技術的変化とアナトリアにおける都市化過程」『日本西アジア考古学会第25回大会要旨集』17-18頁 日本西アジア考古学会。
- 白井則行 2020.2「ファイユーム新石器文化の両面加工石器に関する再研究」吉村作治（編）『オシリスへの贈物 エジプト考古学の最前線』80-91頁 雄山閣。
- Shirai, N. 2020.12 Resisters, Vacillators or Laggards? Reconsidering the First Farmer-Herders in Prehistoric Egypt. *Journal of World Prehistory* 33(4): 457-512.
- 関広尚世 2020.6「文化財とSDGsの接点—スーダン国立博物館所蔵鉄製品の資料調査から—」『考古学研究』67巻1号 17-21頁。
- 関広尚世 2020.6「スーダンもナイルの賜物」『ようこそ、革命シネマへ』アニメプロデュース。
- 千本真生 2020.2「西アジアからヨーロッパへの農耕の拡散と気候変動」日本西アジア考古学会公開シンポジウム実行委員会（編）『気候変動と古代西アジア—古気候から探る文化・文明の興亡—』11-14頁 日本西アジア考古学会。
- 千本真生 2020.3「前期青銅器時代デアドヴォ遺跡の土偶に関する覚書」『日々の考古学』3 299-311頁 東海大学考古学研究室。
- 千本真生 2020.11「上トラキア平野の青銅器時代編年：前期と中期の検討を中心に」『日本西アジア考古学会 第25回大会要旨集』35-36頁 日本西アジア考古学会。
- Semmoto, M. 2020.8 Cord Impressed Decoration on Pottery and Yamnaya Culture in Southeastern Europe. *26th EAA Virtual Annual Meeting: Abstract Book*, 160-161. Prague, European Association of Archaeologists.
- 高橋寿光 2020.3「古代エジプト新王国時代の青色彩文土器の生産地の増加について」『オリエント』62巻2号 122-142頁。
- 高橋寿光 2020.3「エジプト、ダハシュール北遺跡の青色彩文土器について」『エジプト学研究』26号 88-101頁。
- 田辺勝美 2020.12「ガンダーラにおける阿弥陀三尊の起源」『ヘレニズム～イスラーム考古学研究 2020』1-31頁。
- 辻 成史 2020.12「ローマ美術論断章—共和制末期～帝政初期の住宅壁面装飾—」『ヘレニズム～イスラーム考古学研究 2020』69-83頁。
- 常木 晃 2020.2「戦乱の中の文化財の保存・活用—イドリ博物館のこと—」『考古学ジャーナル』763 3頁。
- 常木 晃 2020.3「サンギ・チャハマックとアルサンジャン」山内和也・村上夏希・金井拓人（編）『イラン文明を守る—日本とイランの協力の足跡—』21-26頁 帝京大学文化財研究所。
- 常木 晃 2020.3「象徴の容器としての土器と石製容器—テル・エル・ケルクの事例に基づいて—」山田重郎（編）『都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究2 研究成果報告2019年度』21-29頁 筑波大学西アジア文明研究センター。
- 常木 晃 2020.3「西アジア新石器時代のメガサイト再考」『西アジア考古学』21号 83-94頁。
- 常木 晃 2020.11「メソポタミアの両河地帯」『肥沃な三日月地帯』鈴木 董・近藤二郎・赤堀雅幸他（編）『中東・オリエント文化事典』18-19頁、22-23頁 丸善出版。
- Tsuneki, A. 2020.2 Containers for Spirit: A View from Tell el-Kerkh. In O. Nieuwenhuyse, R. Bernbeck, S. Pollock, G. Russo and J. Schönicke (eds.), *Thinking Inside the Box: Containers in Neolithic Western Asia*, 5-6. Berlin, Free Universität Berlin.
- Tsuneki, A. 2020.3 Tappeh Sang-e Chakhmaq, Arsanjan, Tang-e Bolaghi, In K. Yamauchi, N. Murakami and T. Kanai (eds.), *Archaeological Research and Preservation of Cultural Heritage in Iran*, 30-36, 37-41, 42-46. Fuefuki, Research Institute of Cultural Properties, Teikyo University.
- 常木 晃（原作）・五十嵐あゆみ（作画）2020.3『まんがで読む文明の起源 シリアの先史時代』悠書館。
- 常木 晃・渡部展也・安間 了・辰巳祐樹・S. ジャンモ・R. K. サリ 2020.3「肥沃な三日月地帯東部の新石器化—イラク・クルディスタン、スレマニ地域チャルモ遺跡の調査（2019年）—」日本西アジア考古学会（編）『第27回西アジア発掘調査報告会報告集 令和元年度 考古学が語る古代オリエント』9-14頁。
- 常木 晃（著）*・강후구（訳）2020.4「농경사회에서 도시문명으로: 고대 서아시아의 사례」『東洋學』79輯 175-189頁 檀國大學校 東洋學研究院。

- Tsuneki, A., A. Ikarashi and S. Jammo 2020.3 *Nash'at al-Hadarat Suriat fi Eusur Ma Qabl al-Tarikh*. (文明の起源 シリアの先史時代) 筑波大学西アジア文明研究センター。
- Tsuneki, A., N. Watanabe and S. Jammo 2020.3 *Kirkbiz: A Series of Photogrammetry for Protection of Syrian Cultural Heritage, Ancient Villages of Northern Syria Vol. 4*. Tsukuba, Research Center for West Asian Civilization, University of Tsukuba.
- デネル, R. (著)・西秋良宏 (訳) 2020.2 「現生人類はいつ東アジアへやってきたのか」西秋良宏 (編) 『アフリカからアジアへー現生人類はどう拡散したか』96-126 頁 朝日新聞出版。
- 中山誠二・赤司千恵 2020.11 「アク・ベシム遺跡出土の植物遺存体分析 (2)」『帝京大学文化財研究所研究報告』19 集 17-34 頁。
- 西秋良宏 2020.2 「東京大学による 1950 年代のイラン考古学調査とその後」山内和也・村上夏希・金井拓人 (編) 『イラン文明を守る』3-8 頁 帝京大学文化財研究所。
- 西秋良宏 2020.2 「東アジアへ向かった現生人類、二つの適応」西秋良宏 (編) 『アフリカからアジアへー現生人類はどう拡散したか』53-94 頁 朝日新聞出版。
- 西秋良宏 2020.2 「アフリカからアジアへ、文化の視点」西秋良宏 (編) 『アフリカからアジアへー現生人類はどう拡散したか』223-254 頁 朝日新聞出版。
- 西秋良宏 2020.3 「アゼルバイジャン考古学事情」『考古学ジャーナル』737 24-27 頁。
- 西秋良宏 2020.3 「西アジア旧石器時代にみられる石刃生産の長期的な変化について」『オリент』62 巻 2 号 168-169 頁。
- 西秋良宏 2020.3 「はじめに」西秋良宏 (編) 『アジアにおけるホモ・サピエンス定着プロセスの地理的編年的枠組み構築 4 (「パレオアジア」A01 班 2019 年度研究報告)』i 頁。
- 西秋良宏 2020.3 「アジアにおけるホモ・サピエンス定着プロセスの地理的編年的枠組み構築—2019 年度の取り組み」西秋良宏 (編) 『アジアにおけるホモ・サピエンス定着プロセスの地理的編年的枠組み構築 4 (「パレオアジア」A01 班 2019 年度研究報告)』2-8 頁。
- 西秋良宏 2020.3 「第 9 回西アジア新石器研究国際会議」『第 44 回 2019 年度年報 (公益財団法人鹿島学術振興財団)』268-270 頁。
- 西秋良宏 2020.3 「ごあいさつ」日本西アジア考古学会 (編) 『第 27 回西アジア発掘調査報告会報告集 令和元年度 考古学が語る古代オリент』i-ii 頁。
- 西秋良宏 2020.5 「西アジアの旧石器・新石器時代移行期—レヴァント地方の場合」春成秀爾 (編) 『上黒岩岩陰と縄文草創期』(季刊考古学別冊 32) 105-109 頁 雄山閣。
- 西秋良宏 2020.11 「出アフリカ—オリентに足を踏み入れた最初のホモ・サピエンス集団」鈴木 董・近藤二郎・赤堀雅幸他 (編) 『中東・オリент文化事典』44-45 頁 丸善出版。
- 西秋良宏 2020.11 「飼い猫の始まり—遺跡が伝える新石器時代の人猫交流」東京大学広報室 (編) 『猫と東大。』132-135 頁 ミネルヴァ書房。
- 西秋良宏 (編) 2020.2 『アフリカからアジアへー現生人類はどう拡散したか』朝日新聞出版。
- 西秋良宏 (編) 2020.3 『アジアにおけるホモ・サピエンス定着プロセスの地理的編年的枠組み構築 4』「パレオアジア」A01 班 2019 年度研究報告。
- 西秋良宏・O. アリプジャノフ・O. エンゲシェッド・B. セイフライエフ・仲田大人・新井オニ 2020.3 「北ユーラシアの旧人・新人交代劇—第 7 次ウズベキスタン旧石器遺跡調査 (2019 年) —」日本西アジア考古学会 (編) 『第 27 回西アジア発掘調査報告会報告集 令和元年度 考古学が語る古代オリент』52-55 頁。
- 西秋良宏・A. ザイナロフ・M. マンスロフ・下釜和也・赤司千恵・廣瀬允人・池山史華 2020.3 「南コーカサス地方の新石器時代—アゼルバイジャン第 12 次発掘調査 (2019 年) —」日本西アジア考古学会 (編) 『第 27 回西アジア発掘調査報告会報告集 令和元年度 考古学が語る古代オリент』40-43 頁。
- Nishiaki, Y. 2020.2 Tall-i Bakun A, Tall-i Bakun B, Tall-i Jari A, Tall-i Jari B, Tall-i Gap, Tall-i Mushki. In K. Yamauchi, N. Murakami and T. Kanai (eds.), *Archaeological Research and Preservation of Cultural Heritage in Iran*, 1-22. Fuefuki, Research Institute for Cultural Properties, Teikyo University.
- Nishiaki, Y. 2020.2 Dailaman Cemetery Sites. In K. Yamauchi, N. Murakami and T. Kanai (eds.), *Archaeological Research and Preservation of Cultural Heritage in Iran*, 23-27. Fuefuki, Research Institute for Cultural Properties, Teikyo University.
- Nishiaki, Y. 2020.2 Halimejan Cemetery Sites. In K. Yamauchi, N. Murakami and T. Kanai (eds.), *Archaeological Research and Preservation of Cultural Heritage in Iran*, 28-29. Fuefuki, Research Institute for Cultural Properties, Teikyo University.
- Nishiaki, Y. and O. Aripdjanov 2020.11 A New Look at the Middle Palaeolithic Lithic Industry of Teshik Tash Cave, Uzbekistan, West Central Asia. *Quaternary International*. <https://doi.org/10.1016/j.quaint.2020.11.035>.
- 西山伸一・H. H. アブドゥッラー・山田重郎・沼本宏俊 2020.3 「アッシリア帝国東部辺境を掘る—イラク・クルディスタン、ヤシン・テペ考古学プロジェクト・第 4 次 (2019 年) —」日本西アジア考古学会 (編) 『第 27 回西アジア発掘調査報告会報告集 令和元年度 考古学が語る古代オリент』21-25 頁。
- 西山伸一・J. アブドゥル=マッシーハ 2020.3 「レヴァント回廊の歴史を探る—第 5 次 (2019 年)・フェニキアの港パトルーン遺跡の試掘調査—」日本西アジア考古学会 (編) 『第 27 回西アジア発掘調査報告会報告集 令和元年度 考古学が語る古代オリент』35-39 頁。
- 長谷川修一 2020.1 「遺跡が語る聖書の世界 (13) 市門」『福音と世界』75 巻 1 号 66-71 頁。
- 長谷川修一 2020.2 「遺跡が語る聖書の世界 (14) 列柱付き建造物」『福音と世界』75 巻 2 号 66-71 頁。
- 長谷川修一 2020.3 「「イスラエル」の考古学—古代「イスラエル」出現をめぐる—」常木晃先生退職記念論文集編集委員会 (編) 『世界と日本の考古学—オリブの林と赤い大地—』125-138 頁 六書房。
- 長谷川修一 2020.3 「遺跡が語る聖書の世界 (15) 印章」『福音と世界』75 巻 3 号 66-71 頁。
- 長谷川修一 2020.4 「遺跡が語る聖書の世界 (16) 契約」『福音と世界』75 巻 4 号 66-71 頁。
- 長谷川修一 2020.5 「遺跡が語る聖書の世界 (17) 音楽」『福音と世界』75 巻 5 号 66-71 頁。
- 長谷川修一 2020.6 「遺跡が語る聖書の世界 (18) 交易」『福音と世界』75 巻 6 号 66-71 頁。
- 長谷川修一 2020.7 「遺跡が語る聖書の世界 (19) 葬送と墓制 (1)」『福音と世界』75 巻 7 号 66-71 頁。
- 長谷川修一 2020.8 「遺跡が語る聖書の世界 (20) 葬送と墓制

- (2)『福音と世界』75巻8号 66-71頁。
 長谷川修一 2020.9「遺跡が語る聖書の世界（21）葬送と墓制」
 (3)『福音と世界』75巻9号 66-71頁。
 長谷川修一 2020.10「遺跡が語る聖書の世界（22）戦争（1）」
 『福音と世界』75巻10号 66-71頁。
 長谷川修一 2020.10『旧約聖書〈戦い〉の書物』慶應義塾大
 学出版会。
 長谷川修一 2020.11「遺跡が語る聖書の世界（23）戦争（2）」
 『福音と世界』75巻11号 66-71頁。
 長谷川修一 2020.12「遺跡が語る聖書の世界（24・最終回）戦
 争（3）」『福音と世界』75巻12号 66-71頁。
 Hasegawa, S. 2020.9 The Southern Levant in the Shadow
 of Imperial Powers: Tel Rekhes in the Late Iron Age.
 In S. Hasegawa and K. Radner (eds.), *The Reach of
 the Assyrian and Babylonian Empires: Case Studies
 in Eastern and Western Peripheries*, 25-43. Studia
 Chaburensia 8. Wiesbaden, Harrassowitz.
 Hasegawa, S., H. Kuwabara and Y. Paz, 2020.9 Who Built
 Tel Rekhes? *Biblical Archaeology Review* 46/4: 34-
 40.
 Hasegawa, S., H. Hashimoto, H. Tsumoto and T. Onozuka
 2020.4 The Excavations at Tel Rekhes, Israel: The
 Results of 2013-2017 Seasons. In A. Otto et al. (eds.),
*Proceedings of the 11th International Congress on
 the Archaeology of the Ancient Near East*, Volume
 2, 115-128. Wiesbaden, Harrassowitz.
 Hasegawa, S. and K. Radner 2020.9 Introduction. In S.
 Hasegawa and K. Radner (eds.), *The Reach of the
 Assyrian and Babylonian Empires: Case Studies in
 Eastern and Western Peripheries*, 1-5. Studia
 Chaburensia 8. Wiesbaden, Harrassowitz.
 Hasegawa, S. and K. Radner (eds.) 2020.9 *The Reach of
 the Assyrian and Babylonian Empires: Case Studies
 in Eastern and Western Peripheries*. Studia
 Chaburensia 8. Wiesbaden, Harrassowitz.
 長谷川 奏・徳永里砂・西本真一・恵多谷雅弘・藤井純夫
 2020.3「サウジアラビア紅海沿岸ハウラー遺跡の考古学調
 査（2019）—中世の港町の構造を探る—」日本西アジア考
 古学会（編）『第27回西アジア発掘調査報告会報告集 令
 和元年度 考古学が語る古代オリエント』96-99頁。
 長谷川 奏・西坂朗子 2020.3「エジプト・デルタ地域におけ
 る文化財保存の課題—ブハイラ地方コーム・アル＝ディ
 バール遺跡調査の現場から—」日本西アジア考古学会
 （編）『第27回西アジア発掘調査報告会報告集 令和元
 年度 考古学が語る古代オリエント』137-140頁。
 花坂 哲 2020.3「履物の副葬とその象徴性—エジプト・アコ
 リス遺跡南区の庶民墓の事例から—」『西アジア考古学』
 21号 23-39頁。
 花坂 哲・川西宏幸・辻村純代 2020.3「第3中間期の集落
 址・墓地—エジプト・アコリス遺跡の調査2018—」日本
 西アジア考古学会（編）『第27回西アジア発掘調査報告
 会報告集 令和元年度 考古学が語る古代オリエント』120-
 124頁。
 馬場匡浩 2020.2「ファラオの起源」吉村作治（編）『オシリス
 への贈物：エジプト考古学の最前線』167-174頁 雄山閣。
 馬場匡浩 2020.2「気候変動とエジプト文明」日本西アジア考
 古学会公開シンポジウム実行委員会（編）『気候変動と古
 代西アジア—古気候から探る文化・文明の興亡—』16頁
 日本西アジア考古学会。
 久田健一郎 2020.3「地質学からみたテル・エル・ケルク遺跡」
 『西アジア考古学』21号 95-103頁。
 Hirata, M. 2020.3 *Milk Culture in Eurasia - Constructing
 a Hypothesis of Monogenesis-Bipolarization*.
 Singapore, Springer Nature Singapore Pte Ltd..
 福井淳哉 2020.11「『杜懷宝碑』の書風に関する書道史的考察
 —時代性を中心として—」『帝京大学文化財研究所研究報
 告』19集 149-157頁。
 Fujii, S. 2020.8 Pastoral Nomadization in the Neolithic
 Near East: Review from the Viewpoint of Social
 Resilience. In Y. Nara and T. Inamura (eds.),
*Resilience and Human History: Multidisciplinary
 Approaches and Challenges for a Sustainable
 Future*, 65-83. Singapore, Springer.
 藤井純夫・足立拓朗・上杉彰紀 2020.3「ヨルダン南部ジャフ
 ル盆地の遊牧化—ハラアト・ジュハイラ2号遺跡の第6次
 補足調査（2019年）—」日本西アジア考古学会（編）『第
 27回西アジア発掘調査報告会報告集 令和元年度 考古学
 が語る古代オリエント』125-128頁。
 藤井純夫・足立拓朗・上杉彰紀・小高敬寛 2020.3「アラビア
 半島の遊牧化—ワディ・ムハラック、ワディ・グバイ遺跡
 群の第5次発掘調査（2019年）—」日本西アジア考古学会
 （編）『第27回西アジア発掘調査報告会報告集 令和元
 年度 考古学が語る古代オリエント』132-136頁。
 藤澤 明・三浦麻衣子 2020.11「2019年度アク・ベシム遺跡
 出土の金属製品の保存修復処置と使用された銅合金種」
 『帝京大学文化財研究所研究報告』19集 177-192頁。
 本間美紀 2020.12「ペルシア画家の写した観音図に関する一考
 察」『ヘレニズム～イスラーム考古学研究 2020』43-53頁。
 前田 修 2020.3「石器の加熱処理にみる先史時代の技術運用
 —西アジア新石器時代の事例—」常木晃先生退職記念論集
 編集委員会（編）『世界と日本の考古学—オリーブの林と
 赤い大地—』19-33頁 六書房。
 前田 修 2020.3「レヴァント地方における新石器化プロセス
 の多様性—黒曜石交易からの視点—」『西アジア考古学』
 21号 117-124頁。
 前田 修 2020.3「イラク・クルディスタン地方シャカル・テ
 ペ遺跡出土石器の検討」山田重郎（編）『都市文明の本
 質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究2
 研究成果報告 2019年度』57-63頁 筑波大学西アジア文明
 研究センター。
 Matthews, R., A. Richardson and O. Maeda 2020.9 Early
 Neolithic Chipped Stone Worlds of Bestansur and
 Shimshara. In R. Matthews, W. Matthews, K. Rasheed
 Raheem and A. Richardson (eds.), *The Early
 Neolithic of the Eastern Fertile Crescent:
 Excavations at Bestansur and Shimshara, Iraqi
 Kurdistan*. Central Zagros Archaeological Project,
 CZAP Reports Volume 2, 461-531. Oxford, Oxbow
 Books.
 松尾登史子 2020.12「北部ギリシア、テッサロニキ出土のアフ
 ロディテ小像」『ヘレニズム～イスラーム考古学研究
 2020』33-41頁。
 松本 健 2020.3「ウム・カイスにおけるローマ帝国からビザ
 ンツ帝国への移行（その1）—国士舘大学ヨルダン、ウ
 ム・カイス遺跡調査—」日本西アジア考古学会（編）『第
 27回西アジア発掘調査報告会報告集 令和元年度 考古学
 が語る古代オリエント』129-131頁。
 Matsumoto, K. and J. Telfah 2020.3「The Excavation of
 Grid R13, Umm Qais—Classification of the Pottery
 Found in Grid R13—」『文化遺産学研究』Vol.13 3-27
 頁 国士舘大学イラク古代文化研究所。
 Matbabayev, B., X. Xoshimov and S. Kume 2020.12

- Dalvarzin Hill Fort and Issues of Formation of the Early Town of Fergana Valley in the Bronze Age. In M. Pardaev and Zh. Myrzaahmedov (eds.), *Uzbekistan and Central Asia in the System of World Civilization*, 35-36. Samarkand, National Center of Archaeology, Academy of Sciences of the Republic of Uzbekistan (in Russian).
- 三木健裕 2020.3「工芸品の生産組織を問う—直す—工芸の専門化とむすびついた生産組織の研究手法の課題、および生産組織の関係論的な研究手法に関する一考察—」『西アジア考古学』21号 41-59頁。
- Miki, T., T. Kuronuma, H. Kitagawa, A. Noguchi and Y. Kondo 2020.10 Bronze Age Vessel Remains from the Cave of Mugharat Al Kahf in the Wādī Tanūf: A Preliminary Report of the 2017/18 and 2018/19 Seasons. *The Journal of Oman Studies* 21: 128-143.
- 三宅 裕 2020.3「葬制からみる西アジア先土器新石器時代の社会—ハッサンケイフ・ホユック遺跡の事例から—」常木晃先生退職記念論文集編集委員会（編）『世界と日本の考古学—オリブの林と赤い大地—』3-18頁 六—書房。
- 三宅 裕 2020.3「特集 北西シリアの新石器時代—筑波大学の西アジア調査から—総論」『西アジア考古学』21号 81-82頁。
- 三宅 裕 2020.3「『農耕牧畜の時代』の狩猟具—新石器時代の尖頭器をめぐって—」『西アジア考古学』21号 125-135頁。
- 三宅 裕 2020.3「新石器時代のシンボリズム—ハッサンケイフ・ホユック遺跡出土資料を中心に—」山田重郎（編）『都市文明の本質—古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究2 研究成果報告2019年度』13-19頁。
- 三宅 裕 2020.9「考古フォーカス トルコ、バットマン県、ハッサンケイフ・ホユック遺跡の発掘調査」『考古学研究』67巻2号 74-76頁。
- 三宅 裕・千本真生・石田温美・田代恵美・板橋 悠 2020.3「初期定住集落の姿を探る—トルコ、ハッサンケイフ・ホユック遺跡第6次調査（2019年）—」日本西アジア考古学会（編）『第27回西アジア発掘調査報告会報告集 令和元年度 考古学が語る古代オリエン』44-48頁。
- 宮田佳樹・下釜和也・堀内晶子・宮内信雄・新井才二・赤司千恵・吉田邦夫・V. アラクパロフ・西秋良宏・F. キリエフ 2020.11「南コーカサス新石器時代土器の脂質分析—土器の機能と乳利用の有無をめぐって—」『日本西アジア考古学会第25回大会要旨集』27-28頁 日本西アジア考古学会。
- 村上智見・寺村裕史・宇野隆夫・宇佐美智之・A. ベグマトフ・A. ベルディムロドフ・G. ボゴモロフ・A. サンディボエフ 2020.3「シタデルを覆う火災層の調査—ウズベキスタン、カフィル・カラ遺跡の発掘調査（2019年）—」日本西アジア考古学会（編）『第27回西アジア発掘調査報告会報告集 令和元年度 考古学が語る古代オリエン』75-79頁。
- 望月秀和・山内和也・B. アマンバエヴァ 2020.11「空中写真によるアク・ベシム遺跡（スイヤブ）の解析」『帝京大学文化財研究所研究報告』19集 61-126頁。
- 森 美智代 2020.11「キルギス共和国チュー川流域出土の唐風石造仏教彫刻」『帝京大学文化財研究所研究報告』19集 159-175頁。
- 矢澤 健・吉村作治 2020.3「紀元前2千年紀エジプトの葬制の変遷を探る—ダハシュール北遺跡第26次調査（2019年）—」日本西アジア考古学会（編）『第27回西アジア発掘調査報告会報告集 令和元年度 考古学が語る古代オリエン』107-110頁。
- 山内和也 2020.11「イスラーム時代初期および中期におけるソグド地域の歴史地理」『帝京大学文化財研究所研究報告』19集 205-214頁。
- 山内和也・岡田保良 2020.11「スイヤブ（アク・ベシム遺跡）のキリスト教会—第8号遺構：キリスト教会複合体—」『帝京大学文化財研究所研究報告』19集 247-319頁。
- 山内和也・櫛原功一・植月 学・中山誠二 2020.3「シルクロードの交易都市を掘る—キルギス共和国、アク・ベシム（スイヤブ）遺跡の発掘調査（2019年）—」日本西アジア考古学会（編）『第27回西アジア発掘調査報告会報告集 令和元年度 考古学が語る古代オリエン』62-66頁。
- 山田綾乃・柏木裕之 2020.9「クフ王第2の船銅製金具が装着された厚板—実測調査報告 その4—」『昌平エジプト考古学会紀要』8号 3-25頁。
- 山田重郎 2020.3「都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究 2019年度年次報告書 巻頭言」山田重郎（編）『文部科学省科学研究費補助金新学術領域研究（研究領域提案型）平成30年度～34年度「都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究」研究成果報告2（2019年度）』1～4頁 筑波大学西アジア文明研究センター。
- 山田重郎 2020.3「都市・行政州・領土：アッシリア先帝国内における国家形成と領土支配—研究途上の覚書—」山田重郎（編）『文部科学省科学研究費補助金新学術領域研究（研究領域提案型）平成30年度～34年度「都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究」研究成果報告2（2019年度）』103～115頁 筑波大学西アジア文明研究センター。
- 山田重郎 2020.11「古代メソポタミアの書記教育」鈴木 董・近藤二郎・赤堀雅幸他（編）『中東・オリエン文化事典』丸善出版。
- Yamada, S. 2020.4 Names of Walls, Gates, and Palatial Structures of Assyrian Royal Cities: Contents, Styles, and Ideology. *Orient: Journal of the Society for Near Eastern Studies in Japan* 55: 87-104.
- Yamada, S. 2020.10 The Conquest and Reorganization of the Land of Zamua/Mazamua in the Neo-Assyrian Empire. In S. Hasegawa and K. Radner (eds.), *The Reach of the Assyrian and Babylonian Empires: Case Studies in Eastern and Western Peripheries*, 167-193. *Studia Chaburensia* 8. Wiesbaden, Harrassowitz.
- 山藤正敏 2020.1「キルギス共和国、チュー渓谷西部の考古学踏査（2018・2019年）」帝京大学文化財研究所（編）『2019年度シルクロード学研究会資料集』47-53頁。
- 山藤正敏・B. アマンバエヴァ 2020.3「シルクロード天山北路の形成過程—キルギス共和国、チュー渓谷西部の考古学踏査（2018・2019年）—」日本西アジア考古学会（編）『第27回西アジア発掘調査報告会報告集 令和元年度 考古学が語る古代オリエン』67-70頁。
- 吉田 豊 2020.11「ソグド語の密教経典とセミレチエ仏教」『帝京大学文化財研究所研究報告』19集 193-203頁。
- 吉村作治 2020.3「エジプト発掘 50年」『西アジア考古学』21号 145-150頁。
- 立正大学ウズベキスタン学術交流プロジェクト（編）2020.3『シルクロードの歴史・考古・美術 講演録』2018年11月公開講演会講演録 立正大学。
- Wakano, Y. J. and S. Kadowaki 2020.12 Application of the Ecocultural Range Expansion Model to Modern Human Dispersals in Asia. *Quaternary International*. <https://doi.org/10.1016/j.quaint.2020.12.019>.